

自主防災力を向上させよう!

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から今年で30年が過ぎました。この地震で生き埋めや家屋などに閉じ込められた方のうち、生存して救出された約97.5パーセントの方は、自力または家族や隣人などに助けられました。また、大部分の生存者は発災3日目までに救出された方でした。

このような傾向はほかの大地震でもみられ、最初の3日間は、人命を救助するために非常に重要な「黄金の72時間」と呼ばれています。人命救助に最も大切な地震発生後の72時間を中心に、県や町、関係機関などでは、人命を救う応急活動を最優先に行います。

しかし、近いうちに起こるとされている南海トラフ地震では、高知県を含む広い範囲で甚大な被害が想定されており、公的な救助活動が被災地全域に行き渡らない可能性もあります。

こうした過去の教訓を生かすためにも、発災直後は各地域で助け合って救助活動を行うことが重要となります。

さらに、自主防災組織は避難生活が始まった場合でもコミュニティを保ちながら助け合って生活をしていく基盤になります。

町では、啓発活動の一環として、各地域での集会やサークルなどで一定の人数が集まる際に、町職員による防災講話を行っています。

時間やテーマなど自由に設定できますので、お気軽にお問い合わせください。



黒潮町消防出初式

1月5日(日)、新春恒例の黒潮町消防出初式を挙行了しました。総員200人を越える町内の消防関係機関が一堂に会し、火災0(ゼロ)や防災への決意を新たにしました。

またパレードや一斉放水では、「黒潮消防ここにあり」と町内の皆さんにその勇姿を披露することができました。

これからも、町の防災の要である消防署や消防団、地域防災のリーダーである女性防火クラブ、そして未来を担う少年消防クラブが連携し、黒潮防災の中心として町全体の防災気運を醸成し、また災害から町を守るための消防力を育て、有事に備えていきます。

黒潮町消防団は、共に活動してくれる団員を募集しています。

先人たちが守ってきた町と、そこに生きる温かい人たちを守り未来へつなぐ、そんな仲間を募集しています。



◎お問い合わせ【本庁】情報防災課 ☎43-2188

【佐賀支所】地域住民課 ☎55-3111